

◆「研究グループ紹介」の記事募集のお知らせ◆

本ニュースレターにおいて偶数月号に好評連載中の「研究グループ紹介」では、記事内でご紹介する研究グループを下記の要領で公募させていただくことになりました。皆様のご応募をお待ちしております。

公募対象：教育機関（大学及び高専）、および公的機関（国または地方自治体の所属機関）であり、原則として電気学会会員であることを条件といたします。

公募方法：電子メールにて、下記送付先に数行程度の紹介文を送付してください。

送付先(研究グループ紹介担当)：三浦 友史 (大阪大学) miura@eei.eng.osaka-u.ac.jp,

大場 譲(仙台電波高専) ohba@cc.sendai-ct.ac.jp, 小林 実 (榊 明電舎) kobayashi-min@mb.meidensha.co.jp

掲載可否：産業応用部門編修広報委員会で審議の上、掲載の可否を連絡します。ただし、掲載原稿の著作権は学会に帰属し、文責は投稿者が負うものとします。

公募期間：随時受付いたします。

編集後記

夏はやはり暑くないと物足りない、と思うのは私だけではないと思います。今年の夏が暑いかどうかは、この編集後記を書いている時点では予想がつかないのですが、少なくとも今月号に最終案内があります産業応用部門大会は、今年も熱気に包まれることでしょう。8月27～29日、高知市で開催される本大会の案内では、坂本龍馬像の写真が印象的でした。私たちも大志を抱いて参加したいと思います。

一方熱い話から一転、技術開発レポートでは 268°C (5 K) に冷却される核融合炉用超電導コイルについて(独)日本原子力研究開発機構の高橋様よりご紹介いただきました。国際熱核融合実験炉 ITER は、10年後の完成を目指し、日本を含む6カ国+EUの7極によって進められている超大型プロジェクトです。日本もこうした国際連携の中で非常に大きな貢献をしていることがもっと社会に広く認知されればよいのと思います。

研究グループ紹介では、長岡技術科学大学の大石研究室から、電車の駆動力制御や光ディスク記録装置のトラッキング制御など、最先端のモーションコントロールの研究トピックスをご紹介いただきました。また今月号からは、ご紹介する研究グループの公募が始まりました。多くのグループにご応募いただき、このような興味深い研究内容をぜひご紹介いただきたいと思います。

核融合から電車まで、こうした大変魅力的なトピックスを見ていると電気工学が高校生や大学生になぜ不人気なのか不思議に思えてまいります。産業応用部門大会の子供理科教室のように、学会を通じてもっと小学・中学・高校生にこうした電気の面白さを伝えていくような機会を増やしていくことが必要なのではないかと思いました。

最後になりましたが、ゴールデンウィークの中、ご執筆いただきました皆様、ならびに編集作業に携わっていただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

エディタ 三浦 友史 (大阪大学)